

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言

「同窓会会長の務めを終えるにあたって」

飯島 勅

聖書神学舎の卒業生ではありましたが（第14期）、卒業後2、3回研修会に参加したものの、同窓会活動には無関心な者でした。そのような日々が続く頃、今の教会の牧師に導かれましたが、それを受け入れる決断に至った理由の一つに、導かれる教会が小作に引越した聖書宣教会の近くにあるということがありました。それは、牧会上困難に遭遇したら近くにある卒業した神学校が助けてくれるからということではなく、「近いことゆえの精神的支え」のようなもの（全くこちら側の一方的な思い）を求めたからだだったのでしょう。

しばらくして、宣教会関係者から、「近くにおられるので同窓会の係を務めていただけませんか」とのお誘いを受けました。聞けば、その時、同窓会活動は停止していたのです。それを憂えた(?)方々が、同窓会を新しく組織し直して活動が再開されるよう準備を進めておられたのです。私は、「精神的恩恵を受けている近くの教会の卒業生」としての責任を覚え、第一回の準備会に出席しました。

それまでの同窓会が活動を停止した背景には、卒業生の数が増え、組織が大きくなって身動きできなくなったことがありました。そこで、新しい同窓会は規約を整備して、日本全国を8地区に分け、それぞれに地区長を置いて独立した活動を進めることとしました。また、1名が全国同窓会会長となり（任期3年）、同窓会代表として聖書宣教会評議員会に出席することとなりました。そして、2年の準備期間の後、この私が、「近くにあるのだから」の理由をもって、新規同窓会の全国会長に推されたのでした。その時から丸9年が経ちます。3年前の代表者総会で再再選される時、「次回は交代」を条件にさせていただきましたので、これで私の同窓会会長としての任務は終わります。

ところで、この9年もの間（この期間には宣教会にとって苦しいことが続けて起きました）、

私は、同窓会会長として何をしてきたのかとの自問に迫られます。同窓会活動は、8地区が独立して進めていますので、会長としての任務はほとんどありませんでした。しかし、

私の中には、卒業生であることのゆえに与えられ、しかも留まり続けている内に湧く一つの思いがあり、そして、それが、同窓会全体の思いとなるように願っている心がありました。それは、神が建てられた聖書宣教会への思いでした。聖書宣教会が神の御心になつてその目的に忠実な神学校であり続けるために、そのことを祈り求め、ことの実際を進めて行く責任が（宣教会に対する厳しい姿勢をも含めて）、この学び舎に身を置いたすべての同窓生（卒業生）にあるのではないかと、この思いでした。私は、これを責務の一つとし、それに仕えることが真に母校を愛するという内容であると思っています。この理解と姿勢をもって同窓生同士が互いに励まし合いながら聖書宣教会のために祈り、具体的に行動することが、同窓会に課せられた役目であって、私は、全く不十分でしたが、この理解と普及に努めさせていただく者でありたいと願わされ続けて来ました。

真実に母校を愛するその思いがあつて初めて真実な同窓会であり得るのではないのでしょうか。

最後に、個人的なことになりますが、私が胃癌を患って入院し、手術と長きにわたる化学療法を受けた際には、宣教会関係者をはじめ研修生、そして多くの同窓生の祈りと励ましをいただき、心からの感謝と御礼を申し上げます。

「私は死ぬことなく、かえって生き、そして主のみわざを語り告げよう。」(詩篇118篇17節)



「再出発に向けて」～2009年度よりの新体制

聖書宣教会会長 鞭木 由行

宗教法人聖書宣教会は、2005年春にモリヤ問題を公表して以来、この4年間筆紙に尽くしがたい困難に直面してきました。しかし、当初より2009年度を再出発の年と位置づけ、今日まで新体制を整えるために必要な改革に努めてまいりました。まだ十分とは言えませんが、かねてからの約束どおり、ここにその骨格を示して、改めて皆様からご理解を乞う次第です。

規則と組織の変更

2005年度、新責任役員会のもとでモリヤ問題の検証が行われましたが、同時に今後の体制作りのために三つの小委員会が設置されました。規約検討委員会、カリキュラム検討委員会、会長人事委員会です。責任役員会は、法人規則上のひとつの問題点は、現場の執行責任と経営の責任が会長に集中していた点にあると考え、まず会長職を廃止し、経営責任を担う責任役員会を理事会と改め、理事長を置くことにしました。そのもとに教育現場の執行責任者として主任牧師・校長を任命しました。今後は「理事長と校長」の体制でこの学び舎を運営して行きます。

無論、規則を変更すれば再発は防げると考えたわけではありません。その規則が正しく運用されるためには、その立場にある者の自覚と責任が必要ですが、それでも法人規則を可能な限りあるべき姿に改めることは諸教会に対する責任であると考えました。幸い、この新しい法人規則は、昨年12月に認証されました。

人事と体制

規則と役職名の変更に伴い、人事も異動しました。会長職の廃止は上述したとおりですが、経営責任を担う理事会の理事長として清水昭三先生を選出いたしました。清水先生は福音交友会高石聖書教会牧師で、2005年より責任役員として奉仕してくださっています。また教育現場の校長として私が教師会の推薦を受け、理事会で選任されました。また教育現場の中心に教師会を位置づけ、今後も教師会を中心に運営して行きたいと願っています。評議員会に関しては、チェック機能を強化し、引き続き諸教派・諸団体より意見を伺う場にしたいと願っています。

なお、今回の新体制作りと連動している訳ではありませんが、期せずして津村俊夫師と遠藤勝信師がそれぞれ専任を離れることになりました。2009年度からは赤坂泉先生と私が専任として奉仕することになります。すでに繰り返してアピールして来ましたが、今後、新しい教師が加わることがこの学び舎には必要です。お祈りください。

新カリキュラム

カリキュラム面での改訂も私たちの願いでした。建学以来この学び舎が目指してきた方向性がいまいになっているのではないかという反省を踏まえ、原語によるみことばの学びを中心としたカリキュラムを再確認しました。しかし、牧会者が、原語さえできれば十分と考えていないことは勿論です。みことばの知的訓練と牧会者としての霊的訓練は矛盾しないというのがこの学び舎の立場です。事実、みことばに仕える器を育成するにあたって、実践神学を軽視したことはありません。ただみことばの学びはすべての基礎になることであり、そのために多くの時間を必要とするということです。その基礎の上に立って、みことばに基づく実践神学を統一されたカリキュラムで提供したいと考えました。

まとめ

上記のような新体制のもとで、2009年度から再出発いたします。この体制は、しかし、聖書神学舎の歴史にとって新しいものではなく、むしろ当初あったところに立ち続けようとする努力です。昨年、聖書神学舎は50周年を迎えましたが、その記念礼拝で後藤茂光師は、聖書神学舎の使命が最初から聖書信仰を守ることにあったことを強調されました。大きな痛みを経験しましたが、そこから教えられた多くの教訓を忘れずに、今後もこの使命を担いつつ、みことばの奉仕者を訓練することで諸教会に奉仕したく願っております。もとより諸教会からの祈援なしでは成り立ちません。これからの歩みを引き続きお支えくださいますように、よろしくお祈りいたします。

2009年度 聖書宣教会講座案内

2009年度は次のようなプログラム、講座を予定しています。5月9日(土)、11月7日(土)のオープンデイを始め、聖書講座、教会合唱講座はどなたでも参加できます(オープンデイ以外は要申込)。お待ちしております。

オープンデイ —5月9日(土)—

| | | | | | |
|----|----------------------|---------------|---------------|-------------------------|----------------|
| | I～II (8:20～10:00) | | (10:05～10:35) | III～IV (10:50～12:30) | |
| 1年 | ギリシア語 (横山) | 組織神学I (鞭木) | チャペル | 組織神学I (鞭木) | 教会音楽実習 (飯島) |
| 2年 | 旧約各書 (松本) | | | 新約各書 (遠藤) | |
| 3年 | 旧約釈義II (津村) | | | 牧会学II (赤坂) | |
| 4年 | 中間時代史 (久利) | | | 聖書歴史地理 (松本) | 教理史 (鞭木) |

(上記内容については、当日変更となる場合があります。)

第35回 聖書神学舎夏期研修講座

期 間：7月7日(火)～9日(木)

会 場：奥多摩福音の家

対 象：牧会者とその配偶者

テーマ：「聖書から説教を考える」

今年は特に説教に関する聖書箇所を取りあげ、みことば自体から説教について考え、説教についての課題を分かち合いたいと願っています。しばし牧会の現場を離れ、共通の課題を互いに研鑽いたしましょう。

講 師：津村俊夫、内田和彦、松本任弘、鞭木由行

礼 拝：赤坂泉、岸本紘

第25回 教会音楽夏期講習会

期 間：7月23日(木)～25日(土)

会 場：聖書宣教会(宿泊は近隣の「玉川苑」)

対 象：聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わっている方、および奉仕の準備をしたい方

テーマ：「みことばと賛美Ⅲ」—みことばを歌う—

内 容：講義 [I:詩篇16篇 II:聖霊なる神(2) 教会を建て上げる御霊 III:礼拝について] 講義と演習 [I:H. シュッツの時代のモテットについて II:会衆賛美のリードの仕方] 分科会 [聖歌隊指導法、歌唱法、声楽、オルガン、作曲(入門)]、合唱、教会音楽の夕べ

講 師：聖書宣教会教師・講師

聖書講座 (金曜日 10:30～12:10)

前 期：「ガラテヤ人への手紙」(山村 諭)

4月24日～10月9日(15回)

於 ぶどうの樹キリスト教会(四ッ谷)

後 期：「伝道者の書」(熊谷 徹)

10月～3月(15回)

教会合唱講座 (火曜日 19:30～21:00)

前 期：「新しい歌を主に歌え」

(飯島千雅子、遠藤かおる)

4月21日～10月6日(9回)

於 立川駅前キリスト教会

後 期：10月～3月(9回)

(このほか、聴講制度、教会音楽舎・音楽科卒業生対象の教会音楽研究会があります。詳細は事務局まで)

2009年度 聖書宣教会主要年間予定

2009年

| | |
|---------------------|-------------|
| 4月9日(木) | 入会式 |
| 4月11日(土) | 前期開始 |
| 5月9日(土) | オープンデイ |
| 5月21日(木) | 祈りの日 |
| 6月4日(木)～6月5日(金) | 特別講義 |
| 6月28日(日)～8月27日(木) | 夏期調整期間 |
| 7月7日(火)～7月9日(木) | 聖書神学舎夏期研修講座 |
| 7月23日(木)～7月25日(土) | 教会音楽夏期講習会 |
| 7月中旬～ | キャラバン伝道 |
| 9月1日(火) | 前期再開 |
| 10月14日(水) | 前期終了 |
| 10月15日(木)～10月26日(月) | 秋期調整期間 |
| 10月20日(火)～10月21日(水) | リトリート |

| | |
|-------------------|-----------|
| 10月27日(火) | 後期開始 |
| 11月7日(土) | オープンデイ |
| 11月18日(水) | 祈りの日 |
| 11月28日(土) | 第27回賛美礼拝 |
| 12月16日(水)～1月5日(火) | クリスマス調整期間 |

2010年

| | |
|----------|-----------|
| 1月6日(水) | 後期再開 |
| 2月11日(木) | 信教の自由を守る日 |
| 2月15日(月) | 入会試験 |
| 2月20日(土) | 教会音楽のひととき |
| 3月11日(木) | 卒論発表会 |
| 3月13日(土) | 後期終了 |
| 3月15日(月) | 第51回卒業式 |

編集後記

学舎は今年も変化の春を迎えます。卒業生を送り出す季節は、主の畑の新しい働き手たちのために主のあわれみを願って一層祈らされるときでもあります。

主の全き主権と完全なきよさの前で、ともどもに整えをいただくことを切望しています。(A)